

『マルキュー鯉釣りフェスティバル in 霞ヶ浦』行って来ました

北関東支部 遠藤和彦

淡水研の釣り大会でないと、どうしてこうも晴れるのでしょうか？ それとも私たちの会には大・大・大・雨男がいるのかも？

1. 現地到着まで

大会は9月13日(土) 5:00~7:00まで天王崎公園に作られた大会本部で受付をする、はずだったが、前日の会議後の懇親会が意外と盛り上がり、すっかり気分よく飲んでしまった私。朝3:00に眼が醒めるもまだ顔が火照る感じが抜けない。ヤバイ！冷水を500ccガブ飲む。新聞を読んで時間を費やし、アルコールが抜けるのを待つ。30分後、また水を500cc飲む。前夜帰宅してから12:00までに氷を入れたジュース・茶・水など1リットルほど飲んで酔いを冷ましたつもりだったが、やはり私はお酒に弱いようだ。懇親会でもビール1杯のあとはずっと焼酎だけだったのだが、とにかく朝になっても酔いが冷めず、4:00の出発は断念した。

さらに水を飲み、近くを散歩して5:00。ようやく顔の赤みがとれてきた。やはり飲んでからアルコールが抜けるまでは10時間はかかるというのは本当なのだ実感する。もう7:00の受付締切まで時間が無い。途中釣り場の下見をしつつ天王崎へと考えていたものの、全くその余裕が無くなり、ひたすら走るのみとなった。

途中コンビニでトイレタイム
「安全運転ヨシ！」

北利根橋を渡って左折するも普段行ったことの無い天王崎公園の場所がわからない。愛車のカーナビは、長男が天気予報もわかるようにするからとハードディスクを



外したまま入れ忘れていたので使用できない状態である。受付の7:00まであと4分。恥を偲んで近くの釣り人に聞く。「天王崎公園は、どちらですか？」「あと2kmくらい先ですよ」とのこと。もう間に合わない、でも行くだけ行ってみよう、7:05 オレンジ色の大会本部にマルキューの田久保さんがいた。「すみません、まだ受付OKですか？」「大丈夫ですよ」「ほっ、これでエントリー完了」

2. 釣り場選定

エントリー手続きを終えて、さて、どこへ行く？ 風向きごとに赤塚から古渡まで6箇所のポイントを考えていたのだが、あいにくと風が無い。つまりどこでもいいのだ。ではまず、と小高、霞ヶ浦大橋経由赤塚まで行ってみたが、フィーリングが合わない。時間が刻々と過ぎるが、もうこうなったら同じこと。あわてない、あわてない。引き返して、北利根橋の右岸上手の候補ポイントに行ってみた。既に受付であった参加者がサオを出していた。空席無し。その上流で釣っている若者に話しかけてみた。早朝から5時間でアメナマばかり40匹。底一面、アメナマの絨毯なのか？ この場をあきらめて、「じゃあ、がんばって！」とその場を去ろうとしたら、「アイテテッ」。何と彼が陸に捨てていたアメナマの背を踏んでしまったのだ。ゴム長靴の底を貫いて背びれが足の裏に刺さった。「痛いっ」と言いながらも、会報に載せようと写真を撮った。化膿しては釣りが出来ぬとスーパーで消毒液を買って吹き付け、バンドエイド。OK。もう時刻は10:00をまわっている。だんだんと何をしに来たのかわからなくなってくる。気を取り直して、下見を続け結局、古渡のドック前に決めた。



3. 競技開始

水深は浅く1mしかないが、淡い期待でここでサオを出すことにした。昼の



12:00スタート。夜になると、プーン、プーンと蚊の攻撃がすごく、まったくうっとおしい。防虫スプレーをしているのだが、手にスプレーしてしまうと、その手でつけた食わせのネリエサではコイは食わないだろうと思い、スプレーをしないですると、何匹もたかってくる。Gパ

ンの上からも刺してくるので深夜0:00にギブアップして、車の中で寝た。翌日11:00までがんばって、アメナマ5匹(意外と少ない)、ボラ4匹、コイ4尾(75・40・40・35)。今回の大会はコイ釣果3尾の合計重量で競うことになって

いて、生きたコイの持ち込みのみ有効である。ライブバッグに 75cmではあったがコイをキープした。しかし朝7:00に釣ったにもかかわらず、11:00にはもう昇天していて、持ち込むことは止めた。やはり29 の水温であれほどあばれたために、酸欠状態になってしまったのではないかと。迅速な取り込みとキープ、キメの細かい生地のライブバックなどなど反省点があった。

4. 表彰式

検量もほぼ終えた12:00に会場へ着いた。参加155名のうち淡水研約20名であった。まもなく坂入インストラクタによる釣り講座が始まった。ウキ釣りには、鯉パワー2、浮子鯉1に白ベラ(麩)を入れるとエサが締まるとのこと。また、新エサでフェロモン配合の“神通力”というエサも紹介された。フェロモンの留意点は、ボイルしては、成分が失われる。使用開始12時間で分解されてしまう。ということであった。またまたレパートリーが増えた。私の使用した感触は、結構モチっとした感触で解けやすく、かつ近間で寄せ集まっているという印象である。さて、表彰式が始まった。優勝は、ウキ釣りでコイ91cmほか計15.5kgの釣果をあげた出納(ゼノリ)さんという方でした。淡水研からは、中山さんががんばって4位入賞を果たしてくれました。おめでとうございます。

